

私たちが合併を 選択した理由

～合併前の私たち～

合併せざるをえない財政状況

三位一体の改革などで、小規模町村では、運営が難しくなってきました。合併前の旧8町は、当時進められていた「三位一体の改革」による交付税の削減などで、厳しい財政運営を強いられました。また、同時に地方分権が進められており、これまでの町の規模のままでは、それらに対応できないばかりか、行政サービスを維持していけるのか心配されていました。「財政的にも人的にも小規模の「まち」では、対応できない」そんな不安が当時の8町にはあったのです。

※三位一体の改革とは？

財政を構造的に改革するため、平成16年度から平成18年度にかけて、「地方交付税の見直し」、「国庫支出金の見直し」、「税源移譲」をセットで実施されたものです。しかし、初年度の平成16年度は、国庫支出金が1兆300億円、地方交付税が2兆9000億円削減されたのに対して、税源移譲は6600億円にとどまりました。その後、税源移譲の見直しが行われたものの、もともと税源の少ない地方では、補助金や地方交付税の削減の方が大きかったため、財政的な危機感が強まったと言われています。

変わる住民と取り巻く環境

住民自身も、生活圏が拡大し始めていました。

市民自身も日常生活圏が拡大し、隣町へ勤務したり、買い物に出かけたり、文化施設を利用したりする人が増えてきました。また、それぞれの町が、同一産品を特産物としているにもかかわらず、別個に支援、それぞれがブランド化を目指していましたが、効率が悪く、複数の町にまたがる組織に対する支援も難しい状況にありました。

こうした問題を解決する手段として、「合併」という選択肢が浮上してきました。

今も全国で続く合併

あのかき合併していません、合併していた可能性が。

合併しなくてもよかつたのではない、という声を聞くことがあります。ですが、私たちが合併してから、全国では、新「佐世保市」を含む91の自治体が誕生しました。

今もなお、「合併」を選択する市町村があることは、あのかき合併していません、やはり合併の道をたどっていたのではないか。そうは言えないでしょうか。

合併した。

生活が変わった。

～合併して変わったこと～

ブランド化を目指して

地域資源が、町の枠を超えて売り出せる。合併したことで、特産品がブランド化しやすくなっています。

特産の「島原手延べそうめん」や、トマト(県下1位)、ジャガイモ(ばれいしょ。県下2位)なども、町の枠を超えて、出荷組合などが、ブランド化をすすめています。合併前までは、こうした複数の町にわたる出荷組合への支援は、調整などに手間取ることもありましたが、合併したことで、スムーズな支援が可能となりました。



① 特産品の代表格 「島原手延べそうめん」

② 南島原は、食材の宝庫！



隣町の宝物を私たちの宝物へ

広がる！世界遺産登録への取り組み。

キリシタンの歴史と史跡を、今、地域であらためて見直す動き、さらには、ふるさとを見直す動きが活発化しています。これは、世界遺産暫定一覧表への登録、さらには世界遺産への登録活動を通して醸成された意識でもあります。有馬氏の歴史、原城の乱の模様、口之津の貿易の歴史など、これまでは別々に語られていた「南島原」の歴史が、一つの物語になったから、とは言えないでしょうか。

どこいでもできる、が基本

印鑑証明など、支所でできる事務は、どこでも手続が可能になりました。

戸籍や住民票、印鑑証明などのさまざまな手続も、ほんの4年前までは、自分の住所の役場でしか手続できませんでした。今では、支所でもできる手続は、基本的にどの支所でも行うことができます。こうしたサービスの向上は、市民の利便性を高めることはもちろん、その費用についても、有利な制度を用いながら、少ない経費で実施してきました。このように、合併したことでさまざまな事業を実施できることも、合併の大きなメリットと言えます。

なお、4月に行われる市長・市議会議員選挙からは、期日前投票も、市内8カ所で投票ができるようになりました。



③ 支所などの窓口では、笑顔の対応を心がけています。

詳しい＝頼りになる

専門職を配置し、より高いニーズに応えることができるようになりました。

専門職を集中配置したほか、社会福祉士などの新たな職種の採用など、専門性の高い業務の遂行が可能となりました。



⑤



⑥

広がる交流

市民の広域交流がいつそう活発化。町の枠を超えた取り組みが展開されています。

近年、市民自身が、「町」単位でものを考えることが少なくなってきました。隣のチームやサークル、ボランティア活動に参加することもごく普通に行われています。

好きなサークルを選べるのも、新しいボランティア活動を始めることができるのも、合併で仲間が増えたからこそ。市民がもっと力を合わせ、さらに仲間の輪が広がる。そんな明日がすぐそこにあるのかもしれませんね。



④

- ④ 活発な活動を続けるガイドの会
- ⑤ 環境活動も活発化しています。
- ⑥ 平成20年度に社会福祉士として採用された本村 圭さん。皆さんのためにがんばります。